No. 8　わたらせ養護園におけるモンテッソーリ教育

社会福祉法人桐の実会 わたらせ養護園　渡邊 彩

1　はじめに

わたらせ養護園でモンテッソーリ教育を導入して 50 年以上が経過した。感覚教具 16 個、言語教具 4 個、その他の感覚教具や手作り教具も含めて豊富に所持している。モンテッソーリ教育は幼児部の活動として主に行っているが、学童児も余暇時間を使って取り組んでいる。モンテッソーリ教育には 5 分野があり、その中でも全ての土台となる「日常生活の練習」という分野がある。これは日常生活を通して子どもたちが興味を持ったことに挑戦し体の使い方を学んでいくというものである。朝起きてから夜寝るまでに日常生活を通して様々なことを学べるのが入所施設、わたらせ養護園の強みである。また、モンテッソーリ教育を取り入れている保育園・幼稚園ではクラスを同じ年齢で分ける横割りではなく、縦割りが特徴である。年長児は年少児のお世話をすることで自分たちの学びを復習し、年少児は年長児の姿を見て学ぶ。当園は入所児童の特性上、年少児との関りは危険を伴うので、世話をすることを禁止している。しかし、3 歳から 15 歳、軽度から最重度の児童が 40 名同じ空間で生活をしているので、見て学ぶことができる場面は多い。このように当園の存在自体がモンテッソーリ教育の特徴を備えており、子どもの成長を随所で感じることができる。今回は日常生活の練習にスポットを当てた A くんのケースと全体への支援について実践発表を行いたい。

2　モンテッソーリ教育とは

イタリア初の女性医師であるマリア・モンテッソーリが確立した教育法。モンテッソーリ教育は、子どもの発達段階に合わせて、自発的な成長を支えていくことを目的としている。そして子どもが好奇心や興味を持って自発的に活動できるように、教育課程を 5 つの領域に分けた。

・日常生活の練習：着替え、掃除、挨拶など、日常生活に必要な行動の練習。
・感覚教育：視覚、触覚、聴覚、嗅覚、味覚などの感覚器官を発達させる教育。
・言語教育：豊富な語彙の習得と、読み書きの課程。
・算数教育：具体的な経験をしながら、感覚的に数を理解する課程。
・文化教育：地理・歴史・化学・美術・音楽といったものに出会う中で、世界の多様さを知り、さまざまな違いや人との生き方を理解させる

3　プロフィール

(1) ケース A くん（男性）　12 歳（令和 5 年）
(2) 障害　知的障害重度（療育手帳Ａ１）　自閉スペクトラム症

入所後から令和 4 年度までの様子

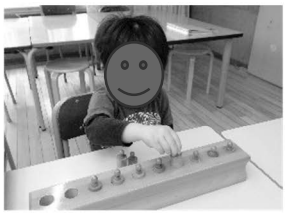
令和元年 12 月、破壊行動と注意引きが激しく、無断外出もあり入所となる。入所後は、多動、自傷、他害、物を破く、物を投げる、唾を吐く、唾を投げるなどの行動障害

が見られている。年齢を重ね、力も強くなり、行動は激しくなっていった。

4　モンテッソーリ教育の実践　令和５年４月から令和６年３月

令和５年度担当になり、幼児部の活動として主に行っているモンテッソーリ教育を学童であるＡくんにも下校時間や余暇時間を活用して実践した。特にＡくんが強く興味を持った草むしりと食後に＊静粛練習を行った。どちらの活動も５分野の中の日常生活の練習にあたる。

＊静粛練習とは目と口を閉じ静かに椅子に座る中で静粛を知り、自己の抑制を身に付けることが目的である。



△幼児部 モンテッソーリ教育の活動　円柱さしの様子

(1) 草むしり

扉が空いていると外に出て行ってしまうＡくんの行動を困りごととして捉えていたが、その行動をよく観察すると外に出て地面に生えている草を抜きたいことが分かった。草むしりを好ましい行動と捉え、Ａくんと一緒にカレンダーを見ながら週１回草むしりをする日を決めた。草むしりをしているＡくんはとても集中しており、作業が終わった後のＡくんはとても穏やかに行動できた。

△草むしりの予定を決めている

△草むしりをしているＡくん

△草を探している

△真剣な表情のＡくん

△草を袋に入れている

(2)静粛練習

多動で奇声を発するＡくんに静粛練習の時間を設け、多動の軽減と自分の出している声にも注意が向けば奇声の軽減にもつながるのではないかと考え取り組んだ。週４回夕食後、椅子に座って口も目も閉じて５分静かに待つという練習を行った。繰り返し行うことで目を閉じることは３秒から７秒程度しか行えないが、口を閉じること椅子に座ることは５分行えた。手を膝に置き目を閉じることもできたが、時間が空いてしまうと両手で目を覆い閉じて行うこともあった。

△静粛練習の様子

△担当の近くで座っている様子

5　実践後の様子

・草むしりができる日を決めたことで見通しがつき、多動が軽減した。
・網戸を破いたり、外に物を投げたりする行動が軽減した。
・担当との関係が深まり、食後以外でも担当の近くに来て静かに座っていることが増えた。
・奇声がなくなった。
・唾遊び、唾を投げることが見られなくなった。
・1、２月事故報告が０件であった。

事故報告書の集計

月	事故内容	回数
4	食器を投げる・エアコンの吹き出し口を破壊・絵本を破く	3
5	網戸を破く・トイレで靴下を流す・厨房に木くずを投げる・窓枠に排尿	4
6	網戸を破く	1
7	天井の壁紙を剥がす・窓枠を外す	2
8	箸を折る	1
9	トイレで天井、便座床、扉に弄便	1
10	壁に穴を開ける・ランドセルを壊す・他児の顔をひっかく 天井にある電球を取る②蛍光灯に物を投げ、割る	6
11	厨房にスプーンを投げる・かごを投げ壊す・他児の顔をひっかく	3
12	居室の窓枠を外す	1
1	なし	0
2	なし	0
3	扉に穴を開ける	1

6　学校での変化（令和５年度）

日常生活の練習を始める前は、単語のみのやり取りが多く意思疎通がうまく取れないこともあったが、このような取り組みを重ねるごとにやりたいことや欲しいものなどがある時に、「〇〇ください（おねがい）」と伝えてから行動ができることが増えた。自分に必要な言葉、要求したい言葉は積極的に覚え、発音が苦手な５文字以上の単語でも自分なりに作成して言ってみたり、身振りや指さしで伝えたりと、諦めずに伝えようとする姿勢が見られた。

以前は、やりたいことができなくて怒ったり、無理やりやろうとする姿勢が多く見られたが、カレンダーや曜日感覚がついてきたことで、見通しを持てることが増えた。

7　全体への支援

(1)環境を整えること

当園には40ｍもあるまっすぐな廊下がある。この一直線な廊下は大人の私でも走りたくなってしまう。廊下を走らないように声をかけたり、「廊下を歩こう」というポスターを掲示しても防ぐことは難しい。床に白いビニールテープを張って線を作り、その上から落ちないようにバランスを整えて歩く練習を行うと楽しみながら廊下を歩くことができた。一時的にモンテッソーリ教育の線上歩行ができる環境を作ったことで子どもは廊下を走らず、歩くことができた。＊線上歩行に興味をもった子どもが窓から注がれてできた太陽光の線の上を歩くこともあった。環境を整えることの大切さを感じた。

＊線上歩行とは歩行線を床に描き、線からはみ出ないように歩くことで平衡感覚や自己の抑制力を身に付けることが目的である。

△線上歩行の活動

△廊下の床にあるテープの線を歩く

△光の線の上を歩く子ども

(2)生活すべてが学び

子どもは園で生活することによって食事、排泄、着脱、洗面、入浴など基本的生活習慣や様々なことを学んでいる。40名の障害程度、年齢も様々、個性豊かな子どもが集団生活を送っていることで対人関係も学ぶことができる。また、大人のやることに興味を持った子どもは配膳当番や布団の準備などの手伝いを自主的に行っている。他児と寝る時に配慮すること、入浴で行う洗体・洗髪など生活の一部を切り取って細かく分析してみると大人ではスムーズにこなしてしまうことも実はたくさんの動きや注意すべき点があることに気づく。

△窓拭きの様子

△雪かきの様子

△布団のシーツ入れ

△布団敷き

△配膳当番

8　考察

当たり前過ぎて見えずらくなっていた日常生活。モンテッソーリは日常生活の練習を教育の土台にしており、子どもをよく観察することを大切にしている。モンテッソーリ教育を学び直したことで日常生活の重要性に改めて気がつけた。子どもが興味を持ったことになるべく挑戦させることでＡくんの成長につながり、他の子どもたちにとってもより良い環境が提供できたと感じる。日常生活からの学びは無限であり、モンテッソーリ教育を深く学び、実践を繰り返す中で入所施設わたらせ養護園が持つ可能性はさらに広がっていくと思う。

9　園内研修

令和４年度に２回、令和５年度は毎月１回１年を通して教具の提示の仕方を職員全体で学んだ。感覚教具は日常生活の練習で得た知識を整理し、感覚をより洗練するためのものである。それぞれの教具はそのままだと子どもが有効に使えない場合があるため、職員が提示と言って一度、見本を見せることになっている。

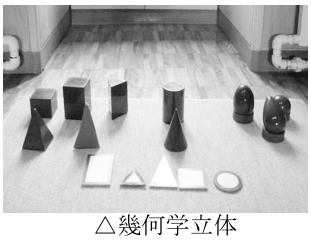
＊教具の提示とは用具や教具の使い方を実際にやって見ること

プログラム内容

(1)令和４年度

・感覚教具：幾何学立体

・言語教育：砂文字板



△幾何学立体

△砂文字板

(2)令和５年度

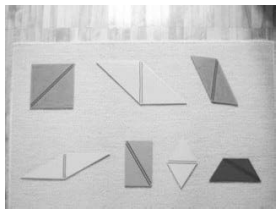
・モンテッソーリ教育の理論について学習

・感覚教具：温覚筒、幾何たんす、構成三角形、色つき円柱、雑音筒

・言語教具：メタルインセッツ、単語ならべ、小さな黒板、市松模様の紙

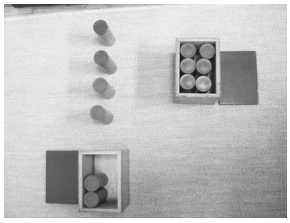
△温覚筒

△幾何たんす

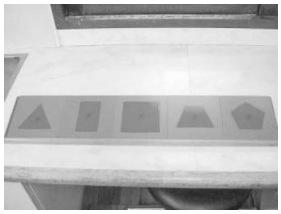


△構成三角形

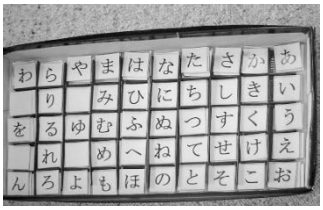
△色つき円柱



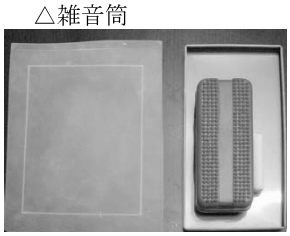
△雑音筒



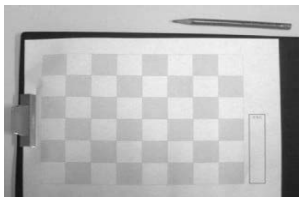
△メタルインセッツ



△単語ならべ



△小さな黒板



△市松模様の紙

(3)職員の意識の変化（園内研修受講後の感想より）

・子どもが教具に取り組む姿を通して集中することの大切さを感じた。

・普段見ることができない子どもたちの良い面をたくさん見ることができた。

・日常生活の中で子どもたちは音、形、色と様々なことを学んでいることに気が付いた。

・子どもたちの興味や関心の違いを知ることができた。

・子どもをほめる機会が増えた。

・１対１で向き合うことで子どもの新たな面を知ることができた　など。

10　モンテッソーリ教育を取り入れている保育園を見学

令和５年６月に高崎市にあるエデュカーレ城之内様を見学。施設見学と実践の様子を情報交換する。日常生活の練習のために子どもが使いやすいほうきやちりとりが用意されており、子どもが学びやすいような環境作りが整備されており参考になった。

△エデュカーレ城之内様との情報交換の様子

11　最後に

園内研修やモンテッソーリ教育に力を注ぐ保育園を見学して改めて、その教育法の魅力を感じることができた。私たちが普段何気なく生活している日常生活の中でも子どもたちにとっては常に学びのチャンスがあることに気付くことができた。また、言葉でのコミュニケーションが難しくても１人１人の子どもたちを観察することでどんな事が得意なのか、どんな事に興味を持っているのかを知ることができた。

実践を通して‘‘やってみたい‘‘という気持ちや‘‘得意な事への集中力‘‘に対しての子どもの純粋なエネルギーは図りしれない。これから成長していく子どものためにも我たち職員が良い環境の一部となれるように行動していかなければならないと改めて思った。

12　参考文献

・モンテッソーリ教育教師養成通信教育講座　モンテッソーリ教育実践理論
公益財団法人才能開発教育研究団　日本モンテッソーリ教育綜合研究所
・イドンギュ（2015）オールカラー　まんがで読む　知っておくべき世界の偉人 19
モンテッソーリ　大日本印刷株式会社